

聖書日課 『からし種』 2023.2.5-2.12

<p>2月5日 (日) ヨシュア 9章</p>	<p>「指導者たちは皆、共同体全体に言った。『我々はイスラエルの神、主にかけて彼らに誓った。今、彼らに手をつけることはできない。我々のなすべきことはこうである。彼らを生かしておこう。彼らに誓った誓いのゆえに、御怒りが我々に下ることはないだろう』(19~20節)。欺きの誓いであっても、主にかけた誓いを、守りきる誠実を待ち合わせているだろうか</p>
<p>6日 (月) ヨシュア 10章</p>	<p>「主がこの日のように人の訴えを聞き届けられたことは、後にも先にもなかった。主はイスラエルのために戦われたのである(14節)。わたしたちの主キリスト・イエスは、物理的な声で語りかけたり、日の沈むことを止めたりはなさらないだろう。しかし、わたしたちに必要な言(ことば)を聖書を通して伝え、また、共に傷み、共にうめいて寄り添い続けてくださる。</p>
<p>7日 (火) ヨシュア 11章</p>	<p>「主がその僕モーセに命じられたとおりに、モーセはヨシュアに命じ、ヨシュアはそのとおりにした。主がモーセに命じられたことで行われなかったことは何一つなかった(15節)。若い日には欠けの多かったモーセも、主を信じ、主の言葉に従い通し、ヨルダン川を渡ることなく主の言葉のとおり命を終えた。主を信じ、モーセを信頼したヨシュアもまた主に従い通した。</p>
<p>8日 (水) ヨシュア 12章</p>	<p>「それは山地、シェフェラ、アラバ、傾斜地、荒れ野、ネゲブであって、そこにはヘト人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人が住んでいた(8節)。ここに名前が挙がったのは3章10節でヨシュアが民に告げた人々の名。生ける神が間におられて、完全に追い払ってくださるという励ましの言葉によって、彼らはヨルダン川を渡り、この地に進んでいった。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.2.5-2.12

<p>9日 (木) ヨシュア 13章</p>	<p>「モーセはレビ族に対しては嗣業の土地を与えなかった。主の約束されたとおり、彼らの嗣業はイスラエルの神、主御自身である」(33節)。主御自身がアロンに告げられた言葉(民18:20)がレビ人への約束となる。それは祭司の務めの大切さを物語る。また、その務めにあたるための高潔さを忘れるなど求められているのではないか。では、私のいただく嗣業とは。</p>
<p>10日 (金) ヨシュア 14章</p>	<p>「ヨシュアはエフネの子カレブを祝福し、ヘブロンを嗣業の土地として彼に与えた。ヘブロンはケナズ人エフネの子カレブの嗣業の土地となって、今日に至っている。彼がイスラエルの神、主に従いとおしたからである」(13~14節)。これから攻め上る土地について、おじけづくことなく伝えたカレブだけが、ヨシュアと共に主の示された土地に入ることを許された。</p>
<p>11日 (土) ヨシュア 15章</p>	<p>「彼女は言った。『お祝いをください。わたしにネゲブの地をくださるなら、溜池も添えてください。』彼は上と下の溜池を娘に与えた」(19節)。デビルを占領するために戦って自分の夫となったオトニエルに畑をもらうように勧めたアクサ。デビルは砂漠だったようだ。その地に実りを得るために自らは溜池を父に求めた。わたしたちは信仰を育む命の水を求め続ける。</p>
<p>12日 (日) ヨシュア 16章</p>	<p>「ヨセフの子ら、マナセとエフライムは嗣業の土地を受け継いだ」(4節)。ヨセフが兄弟たちの恨みを買ってエジプトに奴隷として売られて約四百年。ヨセフの危機と苦難の中に働かれた主が、その子孫たちの生涯にも寄り添い、「約束の地」に導き入れてくださった。主イエスの「神の国」に向かう旅に招かれている私たちも、主の伴いの約束を握りしめ歩んでいきたい。</p>